

【全体概要】

- ・本県の大豆品種は、「フクユタカ」で大部分を占めており、収量性、倒伏、裂莢等の課題がある。特に単収向上が喫緊の課題であり、「フクユタカ」よりも高い収量が期待でき、作期分散が可能な新品種「関東127号」について、品種導入の可能性を検討する。
- ・本県の大豆圃場では、近年、帰化アサガオやホオズキ類等の難防除雑草の発生が年々増加しており、収量、品質面で問題となっている。大豆生育期に使用する新規茎葉処理剤を含む総合的な防除体系について、雑草防除効果および普及性について検討する。

新品種・新技術等の概要

新品種:「関東127号」

「関東127号」は、「フクユタカ」を早生化し、難裂莢性を導入した系統である。三重県農業研究所の奨励品種決定試験(H26～29)では「フクユタカ」に比べて多収となったことより、「有望」と評価されている。



左「関東127号」 右「フクユタカ」

新技術:帰化アサガオ類等の防除技術

2012年「帰化アサガオ類まん延防止技術マニュアル」が中央農業総合研究センターから公開されている。技術マニュアルでは、有効な土壌処理剤+大豆2葉期茎葉処理剤+中耕培土+非選択性茎葉処理剤による畦間散布により防除効果を高めることができるとされている。

主な取組内容

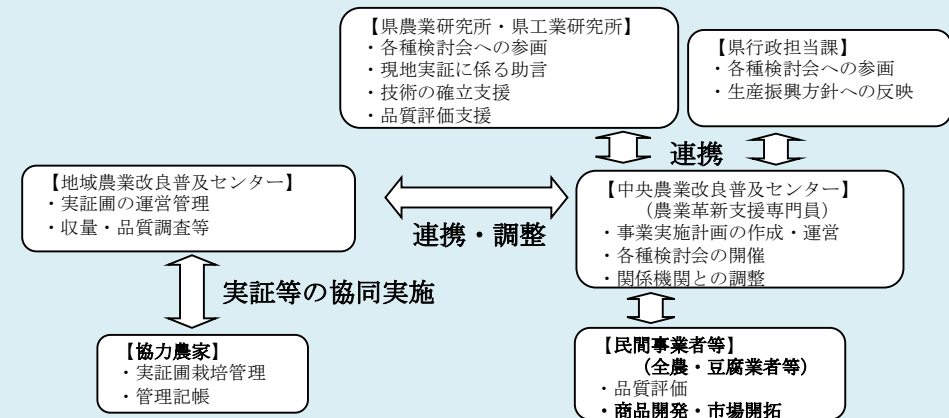
新品種:「関東127号」

- ・県内3地区で実証圃を設置し、新品種の特性を把握した。
- ・農業研究所との連携により、6月中下旬の早播きと普通播き(7月上旬)の作期で検討を行った。
- ・実証結果では、「フクユタカ」に比べて主茎長が短く、収量性もやや高い結果が得られた。しかし、台風の影響と考えられる細菌病の発生など課題も見られた。

新技術:帰化アサガオ類等の防除技術

- ・県内2地区で実証圃を設置し、総合的防除対策の検討を行った。
- ・慣行の防除体系と比べて、帰化アサガオ類、ホオズキ類に対して高い防除効果が実証され、特に、新規剤「フルチアセットメチル乳剤」のホオズキ類への効果が高かった。

実施体制図



課題と今後の対応

- ・新品種「関東127号」については、関係機関との検討の結果、病害抵抗性の弱点が判明したため、導入が見送られることになった。
- ・このため、「フクユタカ」より多収で作期分散が可能な品種の蒼急な検討が必要となり、他県で実績のある「サチユタカA1」、「里のほほえみ」について検討を開始することにした。
- ・帰化アサガオ類等の防除技術の確立については、特にホシアサガオでの防除に課題が残ったため、初期に雑草の生育を抑える新たな防除体系の検討が必要である。
- ・さらに、県産大豆の生産安定に向けては、品種導入、雑草対策と合わせて排水対策の強化、地力増進、施肥、防除体系の見直しなど、試験研究機関をはじめとする関係機関との連携により、総合的な改善が必要である。